

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」 事後報告書

総合文化研究科 広域科学専攻 関連基礎科学系 博士過程2年 柴田真太郎

私は国際研究集会渡航助成により、2019年7月21-25日に開かれた、20<sup>th</sup> International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 20)の有機金属化学を主とする国際学会に参加した。学会の4日目に「**Coordination Behaviors of Diphenylketene Adsorbed in the Nanocages of Zeolite NaY and AgY**」というタイトルでポスター発表をした。

私の研究テーマは、無機固体材料であるゼオライトに有機分子を吸着させその状態を調べる研究であるため、有機金属触媒を用いて新たな有機反応系を構築することを主とした本学会からは少し系統の違う分野であった。しかし、分野の違う様々な研究における知見を取り入れることで、自分の研究において新しい発想と戦略が考えられた。現に私は計算化学を自身の研究で使用しているが、有機金属を使った触媒反応における反応経路の計算をしている他大学の学生と密にディスカッションすることで、論文を読んだだけでは分からない細かな視点や方法を得ることができ、今後の研究のために非常に参考になる情報を得られた。

また、今回の国際学会の会場はドイツのハイデルベルグであり、かのゲーテを初めとする様々な哲学者が思想にふけったという「哲学の道」を歩くことで、今後さらに有意義な研究を行なうための理念や人生観を再確認することができた。渡航助成によりこのような素晴らしい機会を得られたことを誠に感謝致します。



左：学会会場



右：哲学の道から見たハイデルベルグの街並み